

# 「手賀沼 魚類・貝類調査」

手賀沼水生生物研究会 矢竹一穂

2023年9月16日(土) 8:30~15:00 参加9名 天気:晴れ

調査はモンドリによる定量調査とガサガサ(一部目視含む)による定性調査を並行して行った。

場所	漁協棧橋	根戸新田	見晴台(東側に移動)	フィッシングセンター棧橋	片山新田	染入河口(貝調査のみ)	岩井新田
時間	8:50-9:20(30分)	9:45-10:15(30分)	10:50-11:20(30分)	11:50-12:20(30分)	12:40-13:10(30分)	13:35-13:50(15分)	14:10-14:40(30分)
モンドリ数	5	5	5	3	5	0	5(水位少なくモンドリの上部が水面から出る)
モツゴ	92	211	67	101	222		3
タイリクバラタナゴ	165	162	12		76		46
ヌマチチブ		1					
スジエビ	18	14	6	17	19		11
テナガエビ	4	3	3		3		
タモロコ		1			4		
カダヤシ		1					
	ガサガサ:実施なし	ガサガサ	ガサガサ	ガサガサ:実施なし	ガサガサ	ガサガサ:実施なし	ガサガサ
モツゴ		10	2+α				
タイリクバラタナゴ		21			1		
タイリクバラタナゴ稚魚							今年生まれ稚魚多数
ヨシノボリ		1					1
ヌマチチブ					1		
スジエビ		40	○		1		
テナガエビ		17					
シナヌマエビ					1		
ブルーギル(〜5)		4			1		
コウライギギ 稚魚		1	1				
トンボ幼虫		2					
ハリガネムシ			1				
ドブガイ生体							
ドブガイ貝殻							2(貝の基場)
カラスガイ貝殻							1
ヌマガイ			4		12(貝殻)	2	
ウナギ筒 ウナギ					1		
ウナギ筒 テナガエビ					2		



- ・魚類: 全体に昨年度より個体数が多く、モツゴが最も多く、次いでタイリクバラタナゴ、スジエビを確認した。
- ・貝類(生体)は昨年に比べ少なかった。
- ・ヒメガマの減少がひどく、岩井新田の調査地ではほとんど皆無で岸がむき出しになっていた。



定性調査の様子



確認したヌマガイ貝殻